



説教要旨 「万民を照らす救いの光」

ルカによる福音書2章21～40節

生まれて六日目に割礼を施され、天使のお告げによって示された通りに名付けられたイエス様は、定めに従って神殿に連れてこられました。そこでシメオンとアンナという二人の老人がイエス様に会い、その二人ともが神様に感謝し、ほめたたえた様子が描かれています。二人は生後まもないこの幼子に、神の救いを見いだしたのです。

「これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです」。(31-32節)

神様の独り子、まことの神であられる方が、人間となり、それだけでなく一人のユダヤ人、イスラエルの民の一員となって下さった。そしてこの救いはイスラエルだけでなく異邦人にも及ぶものだと語られています。しかし、この神様の救いが実現するために、イエス様は苦しみを受けることとなります。シメオンは母マリアを祝福すると共にそのことを語りました。

人々はイエス様を拒み、十字架につけるのです。母マリアは、「剣で心を刺し貫かれる」(35節)ような苦しみを受ける。しかし、そのことを通してこそ、イエス・キリストによる救いは実現するのです。なぜなら、救いが実現するためには、「多くの人々の心にある思いがあらわにされ」(35節)なければならぬからです。あらわになる思いとは、私たち人間の罪です。神様に従い、み心を行うことを求めるのではなく、自分の思い、欲望を満たすことを第一とし、食欲に支配されて生きている、そのためにまことの拠り所である神様を見失い、隣人を信頼することもできなくなり、疑心暗鬼の中で右往左往してしまう、そうした私たちの罪が、イエス・キリストの十字架においてあらわになるのです。そして罪があらわになると同時に、神様の独り子であるイエス・キリストがその罪を背負って、私たちのために十字架の苦しみと死を受け、私たちのために身代わりとなって死んで下さったことがあらわになるのです。この十字架の出来事によって、神様が万民のために整えてくださった救いが実現するのです。

(2019・1・6 説教者：稲垣真実)